

# 小樽map



### 散策メモ

#### 旧国鉄手宮線跡

道内最初の鉄道として、小樽の手宮駅と幌内駅を結ぶ官営幌内鉄道が1880年開通した。その一部である手宮線は主に石炭やニンシ、昆布、生活物資などを運ぶために使われたが、1985年に廃線、現在は散策路として整備されている。散策路の終点、小樽市総合博物館まで行けば当時使われていた機関車庫、転車台、貯水槽、危険品庫、擁壁などの遺構を見ることができる。



### 散策メモ

#### 日銀通り

戦前の小樽は、石炭やニンシ産業、ロシアや樺太との交易拠点として大いに発展した。それに伴い金融の必要性も高まり、1878年(明治11年)日本で初めての支店、第四十四銀行小樽支店が開設される。箱館戦争の終結からわずか9年後のことだ。その後も続々と支店は増え、最盛期には20行以上の支店ができた。小樽の産業を支えた。

**小樽ガラス**の始まりは、漁業に欠かせない道具、浮き玉からだそう。北一硝子は浮き玉や石油ランプの製造を行い発展した。現在では10店舗以上が小樽に点在している。北一硝子三号館の中には167個の石油ランプだけで明かりをとる喫茶店がある、雰囲気がありおすすめ。